

平成 30 年 2 月 7 日

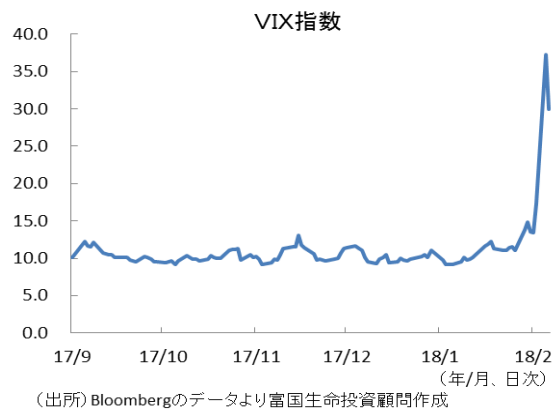
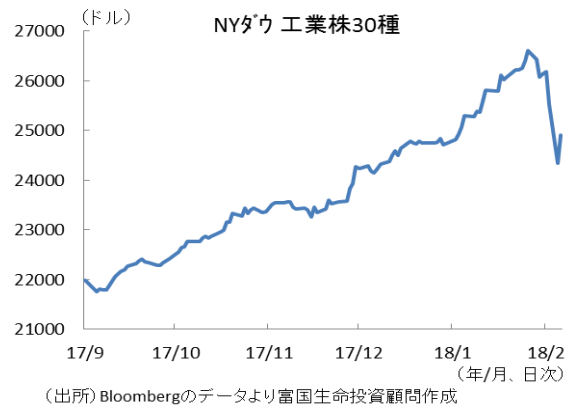
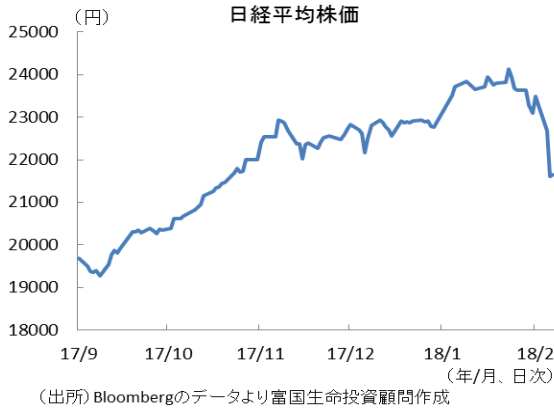
## 日米株の急落と今後の見通し

富国生命投資顧問株式会社

米国株式市場では、2月2日、5日の2営業日でNYダウが7.0%下落しました。1月の急速な上昇により、バリュエーションが高い状態にある中、雇用統計の賃金の伸びが加速し、米国金利が急上昇したことが下落の契機となりました。これがVIX指数上昇の要因となり、VIX連動ETF（インバースVIX）の急落や、ボラティリティに起因したアルゴリズム取引による機械的な株式の売却へと連動したことで米国株式の急落へとつながりました。この米国株式市場の調整が日本市場へと波及し、5日、6日の2営業日で日経平均株価は7.2%下落しました。

ただし、6日の米国株式市場では、日中の値幅は大きかったもののNYダウは2.3%の上昇となり、7日の日経平均株価も、一旦は、下落に歯止めがかかりました。

このような要因などを背景に急落しましたが、堅調なグローバル経済や好調な企業業績といったファンダメンタルズは変わっていないと判断しています。



各資産の見通しは以下の通りです。

米国は、景気の回復を背景に、労働市場がひっ迫しつつあるため、徐々に賃金上昇の圧力が高まり、インフレ率は緩やかに上昇するでしょう。また、税制改革が企業の設備投資や家計の消費の追い風となることが、米国景気の下支え要因となり、FRBは利上げを継続するでしょう。

そのため、米国金利は上昇を予想しますが、押し目買い需要が強いことやロシアゲート問題等の不透明要因もあることから、緩やかな上昇に留まるでしょう。

米国株式は、当面は下値を確認しながらの一進一退の展開を予想しますが、その後は、世界経済が堅調な中で、税制改革の実現を受けた企業業績の増益期待が続き、緩やかに上昇するでしょう。

国内株式は、上昇相場の反動や米国株式の急落などを受けて下落したことから、当面は一進一退の動きとなるものの、金融市場が落ち着きを取り戻すにつれて、好調な企業業績を背景に緩やかに上昇するでしょう。

国内金利は、引き続き日銀の金融政策により低位に留まると予想します。

為替は、日米金利差が徐々に拡大することから、緩やかなドル高円安となるでしょう。

以上